

平成28年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」検証シート

大阪市立 淀川中学校

生徒数

117

平均値

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール 投げ	体力合計点
男子	34.30	27.90	42.98	53.50	334.00	81.19	7.68	202.27	24.12	47.14
大阪市	29.29	27.51	40.96	51.76	411.55	83.43	8.09	191.49	20.42	41.25
全国	28.91	27.46	43.06	51.93	391.72	86.24	8.03	194.69	20.59	42.13
女子	26.13	21.38	45.77	47.13		49.00	9.07	175.23	16.91	51.59
大阪市	24.15	23.41	44.39	46.77	303.34	57.97	8.92	167.47	12.97	49.20
全国	23.75	23.48	45.46	46.60	288.51	58.80	8.83	168.28	12.85	49.56

結果の概要

男子では長座体前屈と20mシャトルランで全国平均に届かなかったが、それ以外は全国や、大阪府・市の平均を上回っている。

女子では握力、立ち幅とび、ハンドボール投げで全国や大阪府・市の平均を大きく上回り結果体力合計点で男子は5.01ポイント、女子では2.03ポイント全国平均を上回る結果となった。保護者の意識や学校での部活動などと相まって非常に良い結果となっている。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

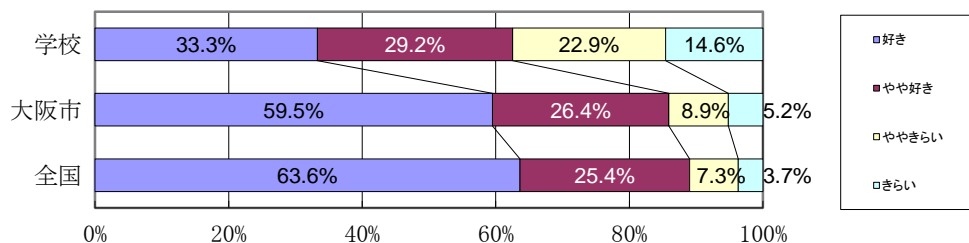
もともと運動に対して思いの強い地域や保護者のもと、学校の授業時にはその時間の目標を各自に持たせ、授業の終わりには振り返りの機会を持ってきた。また部活動では、規律正しく目標をもって各顧問の熱心な指導のもと基礎体力の向上に努めた。これからの生活におけるスポーツの重要性の認識がまだまだ低いところを、今後指導の充実をはかっていく。

運動やスポーツについて（男子）

質問番号	質問事項
1	運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか
2	自分の体力に自信がありますか
3	あなたにとって運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツは大切ですか
4	中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思いますか

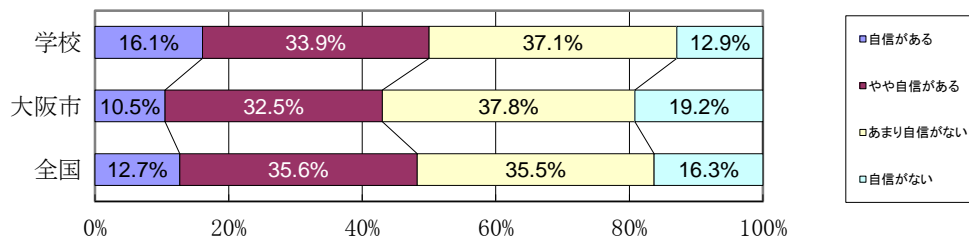
1

運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか



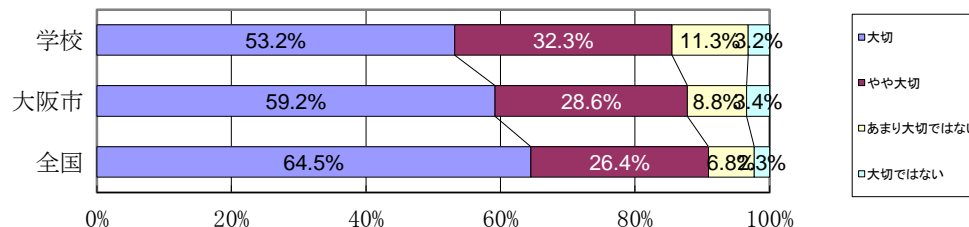
2

自分の体力に自信がありますか



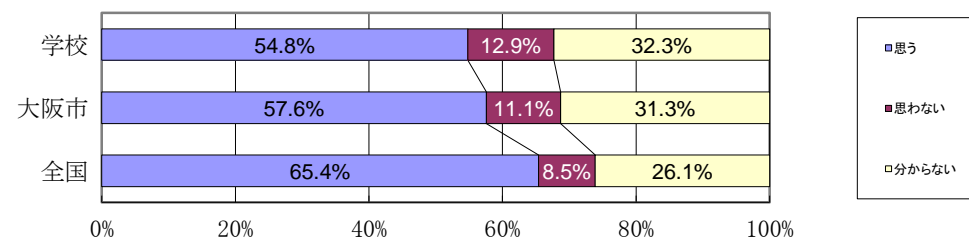
3

あなたにとって運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツは大切ですか



4

中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思いますか



成果と課題

運動やスポーツを好きであったり大切だと思う生徒の割合が低いものの、体力に自信を持っている生徒の割合が平均を上回っている。実際能力は高くその自信も持っているが、そのことの意味や重要性に気づいていないものが多いと言える。

今後の取組

運動やスポーツの大切さや重要性を気づかせていく機会をもっと多く持っていく。

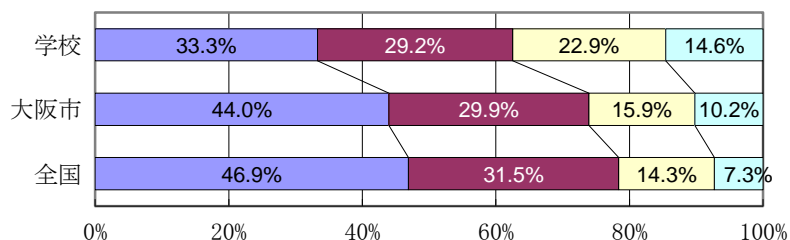
運動やスポーツについて（女子）

質問
番号

質問事項

1

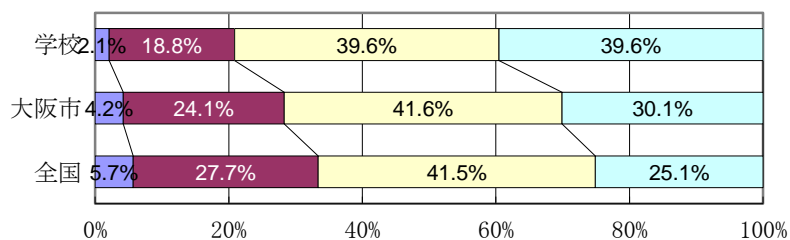
運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか



□好き
■やや好き
□ややきらい
□きらい

2

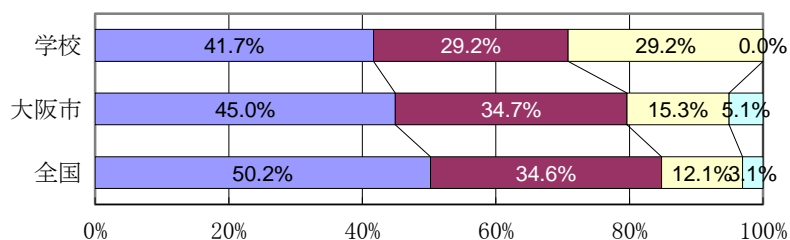
自分の体力に自信がありますか



□自信がある
■やや自信がある
□あまり自信がない
□自信がない

3

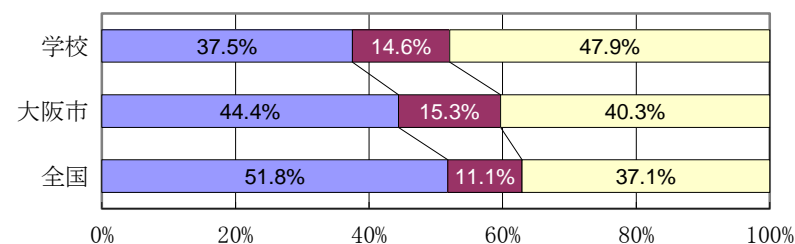
あなたにとって運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツは大切ですか



□大切
■やや大切
□あまり大切ではない
□大切ではない

4

中学校を卒業した後、授業以外でも自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思いますか。



□思う
■思わない
□分からない

成果と課題

男子と同様の傾向が見て取れる。

今後の取組

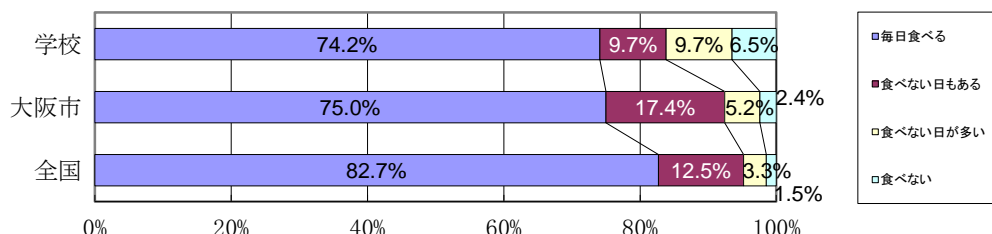
男子と同様運動やスポーツの意義や重要性に気づいていくよう指導していく。

ふだんの生活について（男子）

質問 番号 質問事項

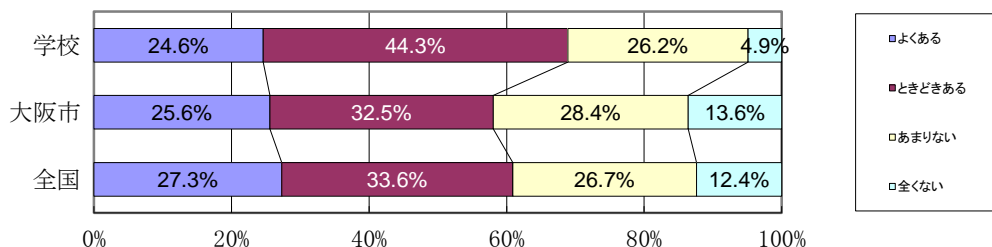
6

朝食は毎日食べますか(学校が休みの日も含める)



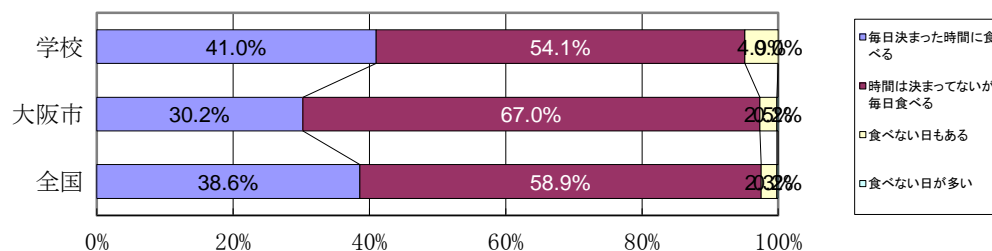
12

家の人から運動やスポーツを積極的に行うことを勧められることがありますか



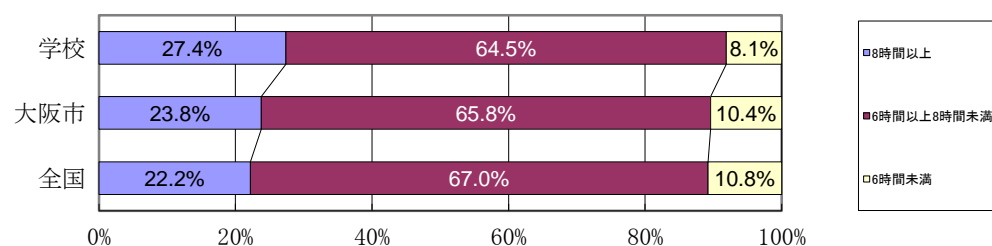
7

夕食は毎日食べますか。(学校が休みの日も含む)



8

毎日どのくらい寝ていますか。



成果と課題

「朝食は毎日食べますか」の問いで、「食べない日が多い」や「食べないと」と答えた生徒の割合が昨年よりも増えている。また「毎日食べる」と答えた生徒の割合も増えている。取組により食育の重要性を認識した家庭が増えたものの、一方で子供に対して正しく食生活を取らせていない家庭も根強くある。

また家の人から運動やスポーツを強く勧められる家庭が多いのも特徴である。

今後の取組

朝食を毎日食べさせるよう保護者に啓蒙しているが、根気強くあらゆる機会を通して訴えかけていく。

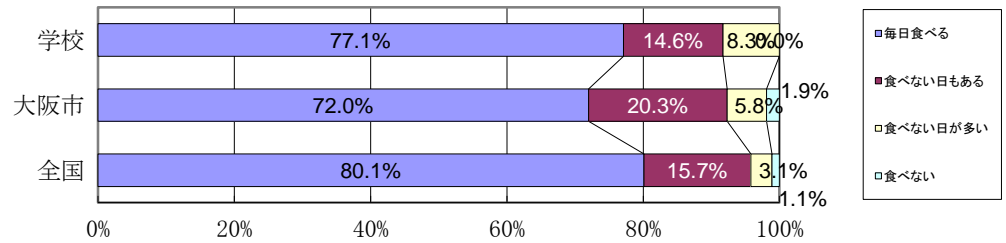
ふだんの生活について（女子）

質問
番号

質問事項

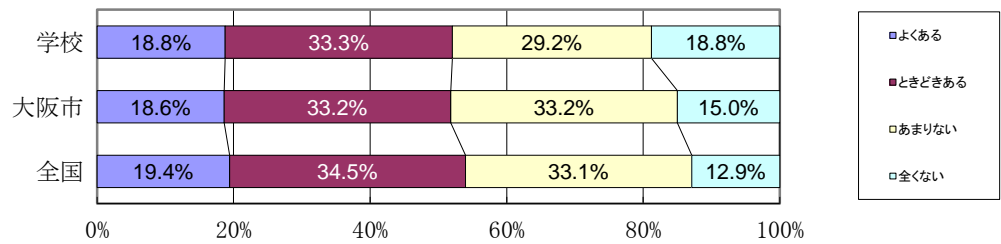
6

朝食は毎日食べますか
(学校が休みの日も含める)



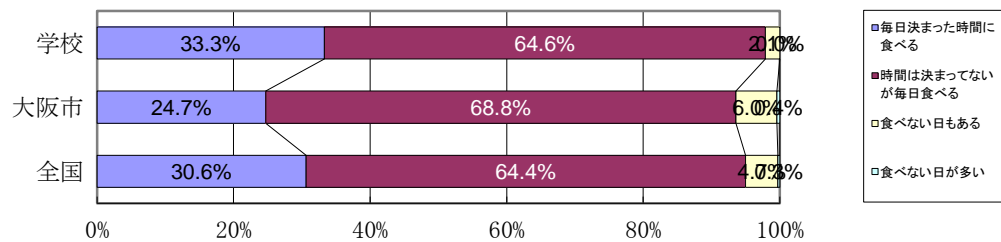
12

家の人から運動やスポーツ
を積極的に行うことを勧められ
ることがありますか



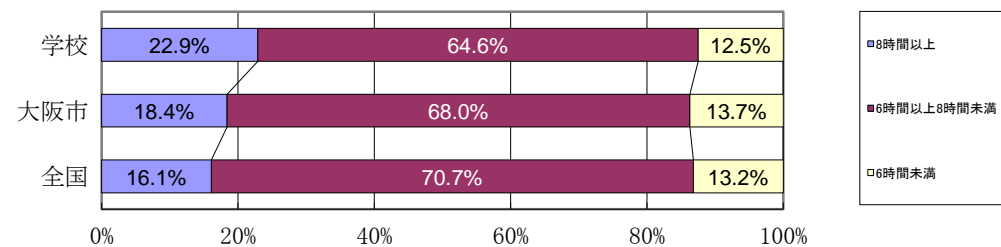
7

夕食は毎日食べますか。
(学校が休みの日も含める)



8

毎日どのくらい寝ていますか。



成果と課題

男子に比べると朝食を毎日食べる生徒の割合は多いが、まだ全国の平均には及ばない。
また男子に比べると、運動やスポーツを強く勧められる生徒の割合は低い。

今後の取組

男子と同じである。

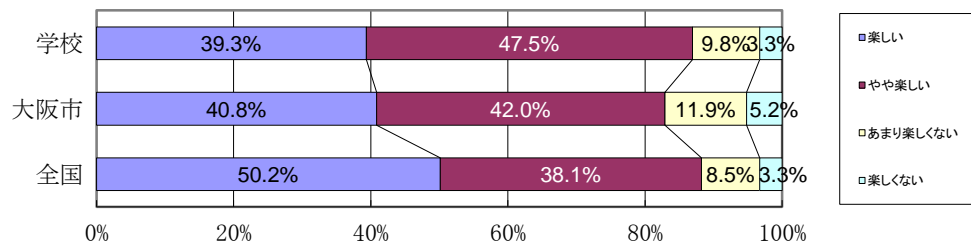
保健体育の授業について（男子）

質問
番号

質問事項

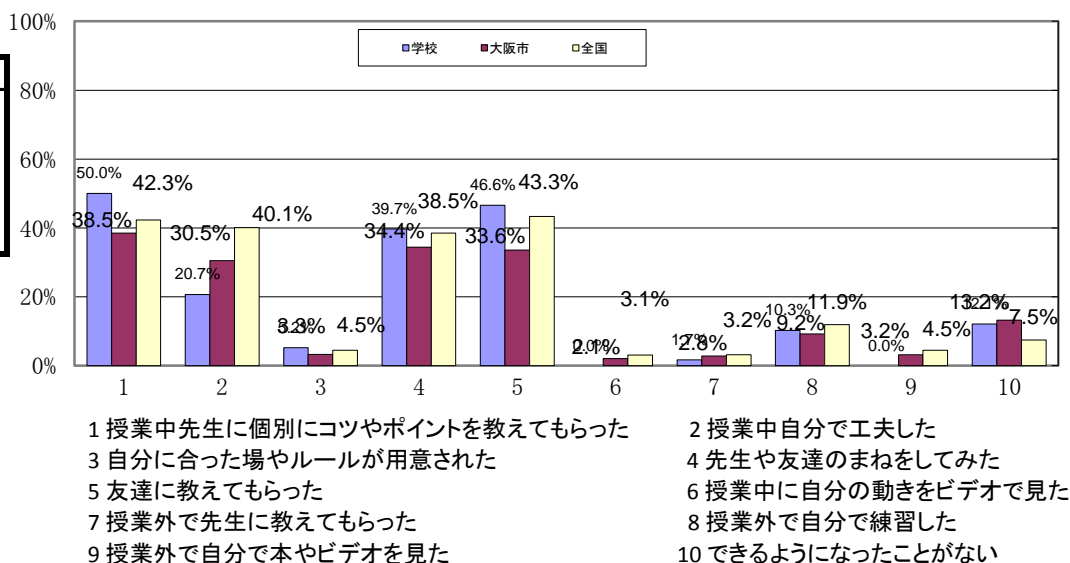
16

保健体育の授業は楽しい
ですか



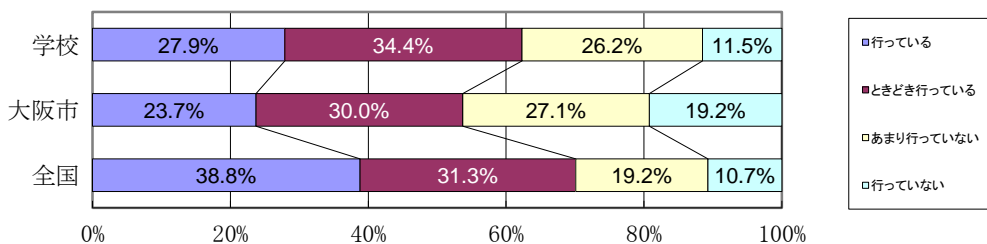
21

これまでの体育の授業で
「できなかったことができる
ようになった」きっかけ、理
由はどのようなものがありま
したか



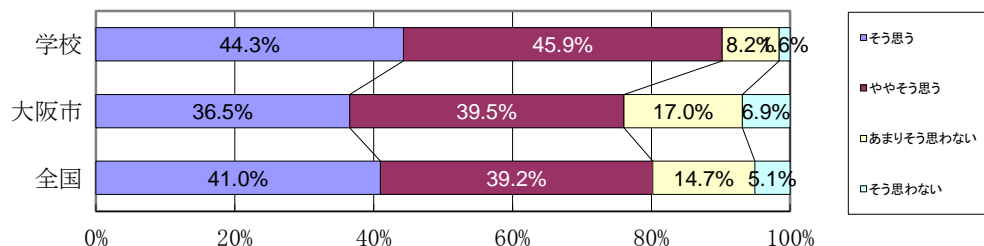
18

ふだんの保健体育の授業
では、授業の最後に今日
学んだ内容をふり返る活動
を行っていますか。



23

今、保健体育の授業で学
習している内容は、あなた
の将来に役に立つと思いま
すか。



成果と課題

保健体育の授業が楽しいと答える生徒の割合が大阪市平均を上回り、全国平均とほぼ同じである。また将来授業で学習した内容が役に立つと答える生徒の割合も全国をも上まわり高い。

今後の取組

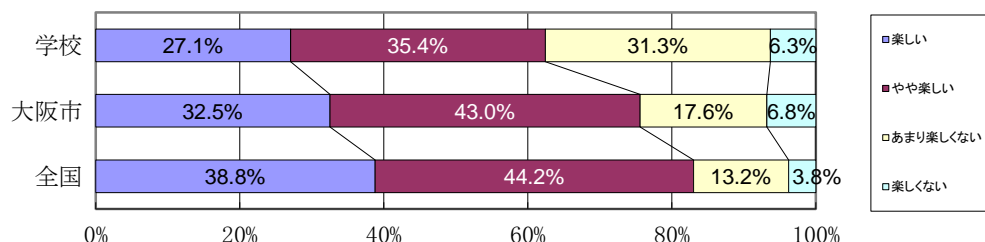
この間の取り組みを継続していきたい。

保健体育の授業について（女子）

質問 番号 質問事項

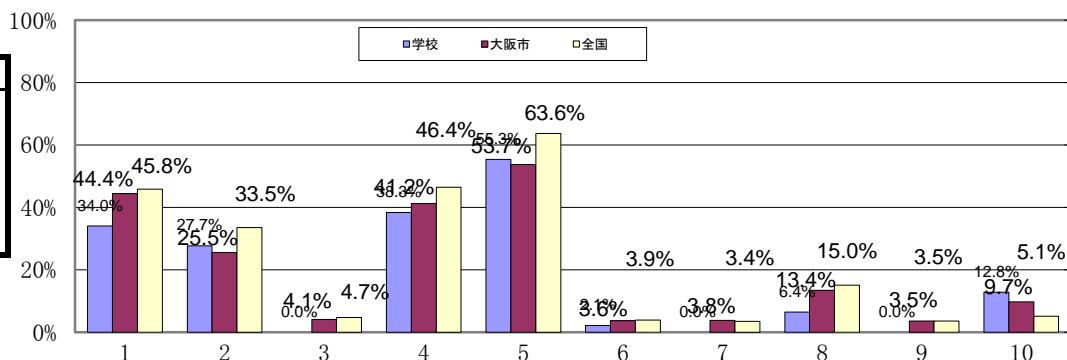
16

保健体育の授業は楽しいですか



21

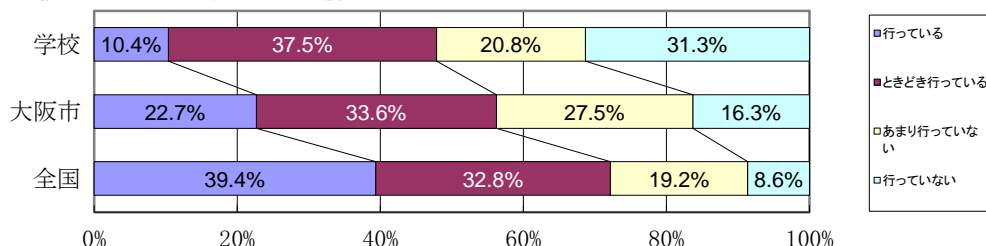
これまでの体育の授業で「できなかったことができるようになった」きっかけ、理由はどのようなものがありましたか



- 1 授業中先生に個別にコツやポイントを教えてもらった
- 2 授業中自分で工夫した
- 3 自分に合った場やルールが用意された
- 4 先生や友達のまねをしてみた
- 5 友達に教えてもらった
- 6 授業中に自分の動きをビデオで見た
- 7 授業外で先生に教えてもらった
- 8 授業外で自分で練習した
- 9 授業外で自分で本やビデオを見た
- 10 できるようになったことがない

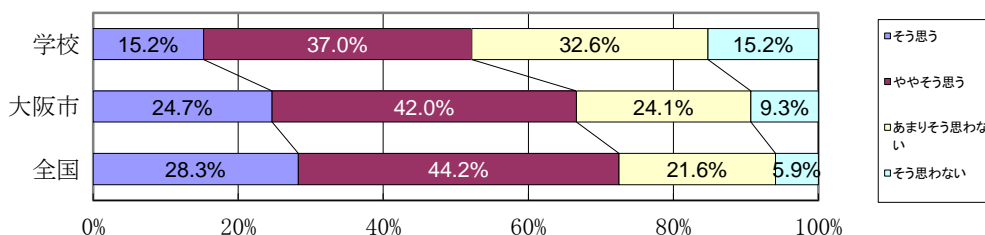
18

ふだんの保健体育の授業では、授業の最後に今日学んだ内容をふり返る活動を行っていますか。



23

今、体育の授業で学習している内容は、あなたの将来に役に立つと思いますか。



成果と課題

男子と比べるとどの項目も低い結果となっている。指導法や取り組みについて改善をはかっていく必要がある。

今後の取組

もともとの体力や運動能力については高いものを持ちながらも、授業に対して消極的な姿勢や態度がうかがえる。意識面に切り込む授業や楽しさを感じられる取り組みを増やしていく。

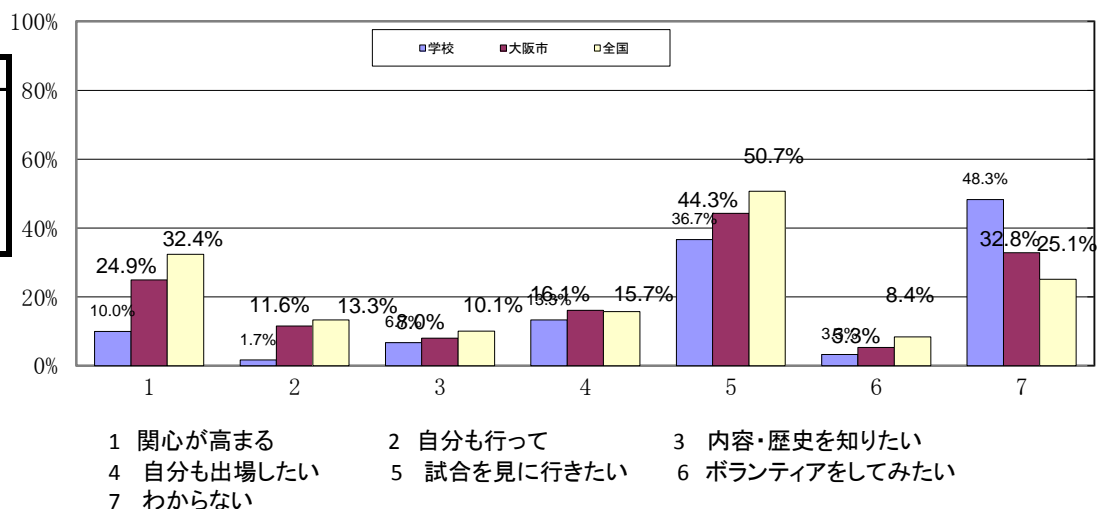
その他（男子）

質問
番号

質問事項

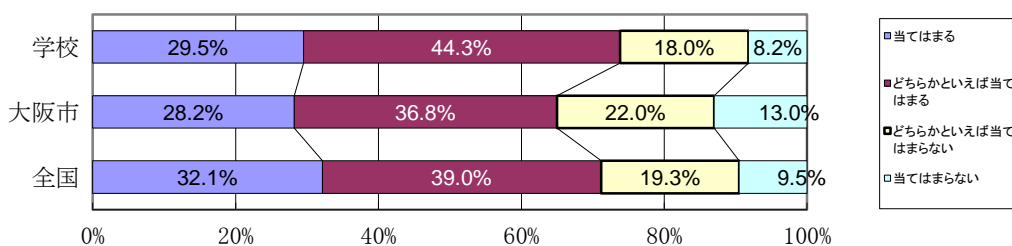
29

オリンピック・パラリンピックへの気持ち



32

自分には、よいところがあると思う



成果と課題

例年と比較すると、この学年の男子は自己肯定感を持つ生徒の割合が多いと言える。様々な取り組みが功を奏しているといえる。オリンピックについては他の社会的事象に対しても関心が低いことと同列であると考えられる。

今後の取組

他の社会的な事象とともに、オリンピックにも関心が持てるように丁寧な指導を心掛けていく。

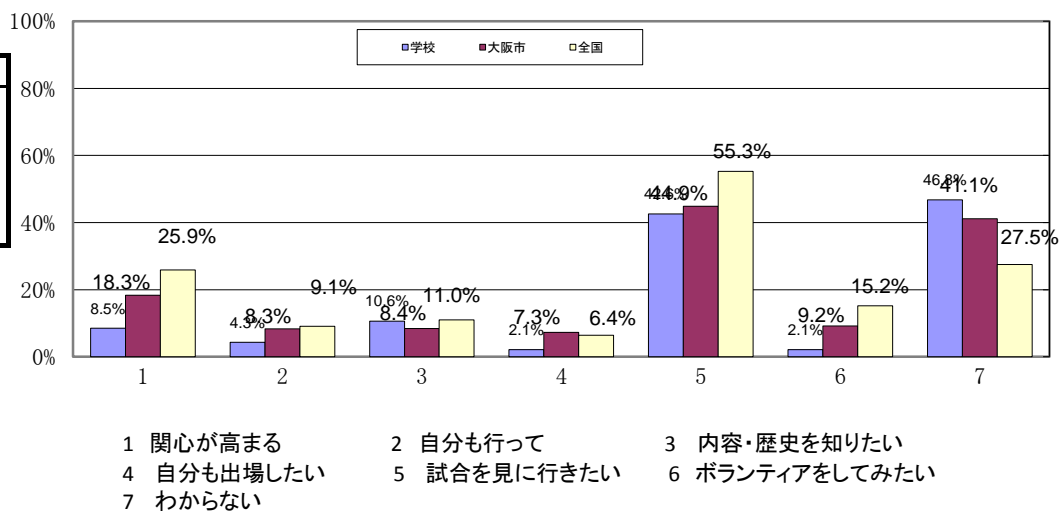
その他（女子）

質問
番号

質問事項

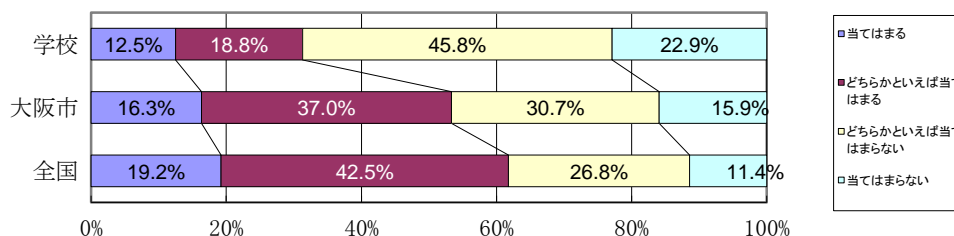
29

オリンピック・パラリンピックへの気持ち



32

自分には、よいところがあると思う



成果と課題

男子とは異なり、自己肯定感が低い生徒の割合が高い。またオリンピックについては男子と同様である。

今後の取組

自己肯定感を高めることができるように、全教育活動を見直していかなければならない。自分の価値に気づく活動を学習活動の中で多く取り入れていく。また社会的事象に対する関心も男子と同様である。